

平成 21 年度 感染症発生動向調査事業関連のウイルス検査結果

保健科学課 ウイルス担当

当所では平成 4 年から福岡県結核・感染症発生動向調査事業に参加しており、現在、8 医療機関 9 病原体定点を対象に検査を行っている。

平成 21 年度、病原体定点より搬入された検体は、187 名 206 検体で、平成 20 年度（166 名、191 検体）と比較しやや増加した。なお、インフルエンザについては同事業以外に、発熱外来（189 検体）、インフルエンザ入院

及び重症サーベイランス（1,233 検体）の検査も実施したが、ここでは計上していない（詳細は「平成 21 年度福岡市におけるインフルエンザの流行状況」を参照。）。

表 1 に臨床診断名別ウイルス検査結果を示した。平成 20 年度は 60 検体だったインフルエンザが、平成 21 年度は 123 検体と急増し、インフルエンザ AH1N1pdm 型の流行が認められた。

表 1 平成 21 年度臨床診断名別ウイルス検査結果

臨床診断名	患者数	検体数	(陽性数)	検体	検出ウイルス (株数)	
急性脳炎	1	1	(1)	咽頭ぬぐい液	アデノ 2 型	(1)
インフルエンザ	123	123	(117)	咽頭ぬぐい液	インフルエンザ A/H1N1pdm	(42)
					インフルエンザ B 型	(1)
				鼻汁	インフルエンザ A/H1N1pdm	(20)
				鼻腔ぬぐい液	インフルエンザ A/H1N1pdm	(44)
				咽頭うがい液	インフルエンザ A/H1N1pdm	(8)
				気管吸引液	インフルエンザ A/H1N1pdm	(1)
				その他	インフルエンザ A/H1N1pdm	(1)
感染性胃腸炎	7	7	(4)	ふん便	ノロウイルス	(3)
					パレコ 1 型	(1)
手足口病	17	22	(1)	咽頭ぬぐい液	コクサッキー A9 型	(1)
				ふん便		
				皮膚病巣		
ヘルパンギーナ	3	3	(1)	咽頭ぬぐい液	コクサッキー A9 型	(1)
				鼻汁		
無菌性髄膜炎	2	3	(0)	ふん便		
				髄液		
その他	34	47	(5)	咽頭ぬぐい液	エコー 18 型	(1)
					アデノ 5 型	(1)
				ふん便	エコー 7 型	(1)
					エコー 18 型	(1)
					パレコ 1 型	(1)
				鼻汁		
				鼻腔ぬぐい液		
計	187	206	(129)			(129)

表 2 に月別、検査法別ウイルス検出状況を示した。ウイルス検出は、例年冬場を中心に増加するが、平成 21 年度はインフルエンザ AH1N1pdm 型の流行に伴い、冬場以外での検出が著しく増加した。

ウイルスの検出は細胞(RD-18S, VeroE6, HEp-2, CaCo-2, MDCK, Vero/hSLAM)培養, Polymerase Chain

Reaction(PCR)等で行った。特にインフルエンザについては、検体数が非常に多かったため、一旦、PCR 法にて判定後、一部の検体について MDCK 細胞を用いた細胞培養を行った。

これらの結果、129 検体からウイルスが検出(検出率 69.0%)された。

表 2 平成 21 年度検体採取月別および検査法別ウイルス検出状況

検出ウイルス	検体採取月別ウイルス検出状況												検 出 数	検査方法別ウイルス検出状況					
														細胞培養法※					PCR
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		R	V	H	C	M	
コクサッキーA9 型				2									2	2			2		
エコー7 型					1								1	1	1	1	1		
エコー18 型			2										2	2			2		
パレコ 1 型				1		1							2	1	2				
インフルエンザ A/H1N1pdm型					2	20	21	19	23	20	10	1	116				102	116	
インフルエンザB型												1	1			1	1	1	
ノロウイルス								1		2			3					3	
アデノ 2 型		1											1	1	1	1	1		
アデノ 5 型												1	1		1	1			
計		1	2	3	3	21	21	20	23	22	10	3	129	8	5	3	8	103	120

※細胞名の略称

R: RD-18S, V: VeroE6, H: HEp2, C: Caco-2, M:MDCK